

## コロナエンデミックにおけるインドネシアの風景

～電気自動車への移行が進み、各種活動が再開～

ジャカルタデスク 山下 冬馬

2021年下半期よりコロナ規制が大きく緩和され、2022年は経済成長もコロナ以前と同水準まで回復してきました。今まで開催できていなかった各種活動も再開され、コロナ禍で抑制されていたインドネシア人のエネルギーを感じました。今年は、G20の議長国をインドネシアが務める事もあり、国外に大きくアピールしていく年となります。

### 1. カーボンニュートラルに向け日本車もEVを投入

インドネシア人の多くは、日本車を好んで選びます。新車販売台数の90%以上を日本製の車両が占めていますが、昨年より電気自動車への移行を国としても後押ししている中で、日本メーカーは中国や韓国メーカーの後塵を拝していました。

そのような中で、トヨタ自動車のインドネシア販売会社トヨタ・アストラ・モーター（TAM）が2022年10月に、トヨタブランドで初となる電気自動車の投入を発表しました。いままでインドネシアでは、高級車ブランドのレクサスから1車種販売されていたのみで、一部のユーザーにしかアプローチできていませんでしたが、これからは幅広い層の需要を見込んでいます。同車種は、今年開催されたインドネシアでのG20の公式車両となっており、これを期に、他の日系メーカーも電気自動車やハイブリッド車の販売に力を入れていくこととなります。



写真：Toyota HPより

### 2. 想いを一つに、3年ぶりの「ジャカルタ日本祭り」

日本インドネシア友好財団が主催し、在インドネシア日本国大使館、ジャカルタ・ジャパン・クラブが後援する「ジャカルタ日本祭り」が、コロナの影響での中止後、3年振りにジャカルタ市内で開催されました。このイベントは今回で12回目の開催となり、インドネシアの若年層を中心に根強い人気を集めています。

開催を決定した2022年5月には、開催時期10月におけるコロナ感染状況を予測する事ができず、今回の開催は初めて会場とオンラインを融合したハイブリッドになりました。インドネシアに在住する芸人の「そこらへん元気」さん、「JKT48」、「スキマスイッチ」等の有名人も参加した本イベントは、9万人の来場者、5万人のオンライン視聴者を集め過去最大規模となりました。



お神輿展示



お神輿を体験される、金杉在インドネシア日本国大使と、ユスロン前在日インドネシア大使

撮影：著者

### 3. 日本人同士の交流も再開

ジャカルタ・ジャパンクラブ個人部会も、コロナの影響で中止していた各種サークル活動を再開しています。当クラブには、バリ舞踊やコーラスといった文化部から、テニス、サッカー、ソフトボール、バドミントン等の運動部、合計20のサークルがあります。中でもソフトボール部は、500人以上のメンバーが登録し、合計4リーグ、24チームが参加する最も大きいサークルになります。各リーグ内にて総当たり戦を行い、シーズン毎に上位チームと下位チームがリーグ昇格・降格となります。シーズン中は毎週日曜日に、ジャカルタから車で1時間の郊外にあるグラウンドにて、皆さん汗を流されています。シーズンの再開にあたり、あるチームの監督は、「やっと皆でソフトボールができる。ゴルフも良いがやはり試合後の懇親会が楽しみで参加している」と仰っていました。



写真：ジャカルタ・ジャパンクラブ HPより



ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】